

こんにちは。鳥取県東南アジアビューローの辻です。

日本選手の活躍により、過去最多のメダルを獲得した平昌オリンピック。日本では大変盛り上がったことと思います（残念ながら南国のタイではほとんど話題に上がることはありませんでした）。2年後に迫った東京オリンピックに向けていい刺激になったのではないのでしょうか。

その東京オリンピック出場を目指す鳥取県の3人の大学・高校生ボクサーが、先日タイのスポーツ学校で強化合宿を行いました。今回はその様子をお伝えいたします。

（今回のタイ合宿開催にあたり、当ビューローが現地受け入れ先との調整をお手伝いさせていただきました）

【参加選手紹介】

小川 達也選手 18歳 高校選抜全国優勝、いわて国体全国優勝、国際大会銀メダル

入江 聖奈選手 17歳 全日本大会優勝、AIBA 世界女子ユース大会銅メダル

木下 鈴花選手 17歳 高校インターハイ優勝、AIBA 世界女子ユース大会銅メダル

【引率者】

伊田 武志 シュガーナックルボクシングジム会長



左から入江選手、伊田会長、小川選手、木下選手

今回の合宿は、タイ王国ボクシング協会を通じ、タイ東部のナコーンラーチャシーマー県立スポーツ学校の協力を得て、同校で実施されました。このスポーツ学校は2005年に創立され、中学1年から高校3年まで男女約300人の生徒が寮生活をしながら学校生活を送っています。強化対象の競技はサッカー、陸上競技、重量挙げ、ムエタイ、ボクシング、セパタクローの6つで、特にムエタイ、ボクシング、セパタクローは世界大会でもタイが強豪国として知られる競技であるため、強化に力を入れています。

今回、スポーツ学校には練習場所の提供と、国際大会レベルの選手とのスパーリング実施をご協力いただきました。合宿に参加された選手の皆さんと伊田会長、スポーツ学校コーチ(ナショナルコーチ兼任)の Mr.Poek Puengpanya にインタビューをしましたのでご覧ください。

～◆～◇～小川選手・木下選手・入江選手のインタビュー～◇～◆～

ータイは初めてですか？タイに対してどんな印象ですか？

小川: 去年7月に試合で来たことがあるので、今回で2回目です。タイは暑く、日本との寒暖の差があるので、体調を崩さないように気をつけたいです。

入江: 初めてのタイで、とても暑いところというイメージです。

木下: 私も初めてのタイで、タイは蹴りがあるムエタイが普及している国という印象です。

ータイの選手と一緒に練習やスパーリングをしてみてくださいですか？

入江: とにかくスタミナが豊富です。

木下: 日本人と違ってぐいぐい前に出てきて、スタミナがすごいと思いました。私がパンチを当てても怯まずに前に出てきて、逆にやり返されることもありました。

小川: 日本人とは違うボクシングスタイルで、。タイの選手は力強くパンチを打ってくる。3ラウンドのスパーリングで最初から最後までずっと力を抜かない。こっちの体力がどんどん削られる感じがしました。気を抜いたら危ないパンチが飛んでくるので、こちらでも集中を切らさないようにしました。日本では対戦することがないスタイルとスパーリングすることができたので、今後の海外で試合する時にこの経験を活かせると思います。



スパーリングをする小川選手



スパーリングをする入江選手

ーボクシングを始めたきっかけは？

入江:小学校2年生の時に家にあったボクシング漫画「がんばれ元気」を読んで、とても影響を受けてボクシングを始めました。他には陸上競技をやっていました。

木下:私は元々は空手をやっていたのですが、幼馴染の入江選手に誘われて始めました。

小川:他の二人とは幼馴染で、自分は元々太っていたのですが、入江選手に誘われて始めて、その後木下選手が始めました。

ー幼馴染の三人が共に全国大会で結果を残しているのはすごいですね

小川:伊田会長が的確な指示と、それぞれの選手にあった練習メニューを考えて与えてくれます。今、自分は何を練習したら良いのか、練習内容が明確なので信頼しています。



タイ人選手とミット打ちをする木下選手

ータイ料理はどのようなですか？

木下:美味しいけど、めっちゃ辛い(笑) 食後にもらったアイスクリームが日本とはちょっと違った味で、美味しかったです。

入江:初めてのタイ料理で、ひき肉の料理は辛かったけど、卵料理など辛い料理もあって、口に合いました。

小川:パクチーも苦手ではないので、美味しく食べています。今日は虫(こおろぎ)の素揚げのようなものを食べさせてもらいました。美味しかったです(笑)

ーボクシング選手として、今後の目標は？

入江:4月にアジアユース選手権があるので、そこでメダルを獲得してユース五輪の出場権を獲得したい。将来的には東京オリンピックで金メダルを獲りたいです！

木下:3月に選抜大会という全国大会があるのでそこで優勝をして、4月にあるアジアユース大会に選ばれるようにがんばって、そこでもメダルをとって、最終的には東京オリンピックに出たいです！

小川:近い目標としては国体に出場して優勝すること、一番の目標は東京オリンピックに出場してメダルを獲得することです！

～◆～◇～シュガーナックルジム 伊田会長のインタビュー～◇～◆～

ー今回タイで合宿を開催した目的は？

伊田:海外で通用する選手に育成しなければ、アジア大会、世界大会、東京オリンピックに出場する切符が取れないので、海外の選手といかに戦うか、海外の環境に慣れるか、それが大事だと思うので、それを各選手が経験することが今回の合宿の目的です。ここ数年は年に3回前後の海外遠征をして、日本ではすることの出来ない経験を積んでいます。

ー環境が変わると動きも変わるのですか？

伊田:全然違います。例えば以前に遠征をしたロシアは寒いので、時間をかけて体を温めて、柔らかい筋肉の使い方をする戦い方です。今回、寒いところから来たうちの3選手は汗をかくことに慣れていないから、バテバテでスタミナがない。タイの選手は元気！ただ逆に、タイの選手がこの時期に日本へ来たら、動きが悪くなると思います(笑)



タイ人選手とコンビを組んでの練習

ー今回練習相手としてのタイの選手の印象は？

伊田:とにかく強い、元気！体が強いですね。日本人にはないガッツを感じます。ボクシングもパワー、馬力を活かしてガンガン前にくるスタイル。

ー今回の合宿場所はいかがですか？

伊田:実はこちらの学校のコーチとは、先日行われたインドの世界大会で会っていて、共通の友人もいるので気さくに声を掛けてくれて、すぐにうちとけることができました。町中の商売でやっているジムとは違って、ここの選手はみんなトップを目指してやっている子達ばかりなので、練習相手としても非常にいい相手だと思います。練習以外にも学校のパーティーに招いてもらうなど、非常にウエルカムな雰囲気を受け入れてもらえて嬉しいです。

以前、フィリピンやロシアで合宿を行った際に、事前の交渉がうまくいかないこともあったのですが、今回は県庁を通じて東南アジアビューローに受け入れ先との交渉をお願いして対応してもらえたので、非常に助かりました。

ー今回合宿に参加された3選手に期待すること、望むことは？

伊田:3人ともオリンピック出場を目標にしている、有望だと思っています。そんな3人に今求められるのは、世界を知ること。世界のトップレベルに照準を合わせて練習してもらいたい。日本の恵まれた環境で練習をしているとわからないですが、こうやって海外に出ると自分より強い相手に出会うことができるし、そのことに刺激を受けてモチベーションを高めてもらえれば何よりです。

タイ王国及び他の東南アジア諸国の経済・産業動向、社会動向報告書

2018年2月②

～◆～◇～スポーツ学校コーチ Mr.Poek Puengpanya のインタビュー～◇～◆～

ーナコンラーチャシーマー県立スポーツ学校について教えてください

Mr.Poek: 本校はユース世代の選手の育成を目的に、2005年に創立しました。現在はボクシングをはじめ、重量挙げ、セパタクローの代表チームやプロのムエタイ選手を多く輩出するようになりました。ボクシングの話になりますが、今回のような海外からの合宿を年間を通して数多く受け入れています。日本からの合宿受け入れは今回が初めてですが、過去にはアメリカ、インドネシア、マレーシア、フィリピンなどからの合宿を受け入れたことがありますし、オーストラリアからは毎年、ベトナムからは年間複数回の合宿を受け入れています。

ー今回、鳥取県から合宿にきた3人の選手を見てどう思われますか？

Mr.Poek: 3人とも速く連続した攻撃が印象的だと思いました。今回は真冬の鳥取から暑いタイへ来たということもあって少しスタミナ切れな面はありますが、パンチのスピードがタイの選手たちよりも速いです。個別に見ますと、小川選手はスピードがあり、序盤は連続してパンチを出しているのですが、やはり急に暑いところに来た影響があって、終盤足が止まってしまっていたようです。木下選手はパンチを打った後のバックステップがはやいので、距離をとるのが上手ですね。接近戦での防御を強化すればもっと良くなると思います。入江選手は構え、ガード、距離の保ち方が上手で、いいパンチを持っていると思います。3人とも国際大会で見たことがある選手ですし、木下選手と入江選手が先日インドで行われた AIBA 世界女子ユース大会で銅メダルを獲ったことも知っています。皆さん、代表としてふさわしい選手だと思います。

ーメッセージなどあればお願いします

Mr.Poek: 日本のことは長年の盟友、親友だと思っています。今回の合宿も喜んで受けさせてもらいました。まだ調整中ですが、我々も近日中に福島県で合宿をすることを計画中です。日本の選手にはタイの選手にはないスピードや直向さ、真面目さがありますので、それらをタイの選手にも学んでほしいと思います。国際大会などでの日本選手の試合もよく気にかけていますし、顔を覚えている選手や親しいコーチも何人もいます。これからも両国のアマチュアボクシング界が親交を深めて行くことができれば嬉しく思います。



共に練習した選手たちの記念撮影

鳥取県東南アジアビューロー Tottori-Southeast Asia Trade and Tourism Bureau

担当：辻 三朗 Saburo Tsuji

Address: 1 Glas Haus Building, 12 FL., Room 1202/C, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd.,
Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110

Tel : +66-(0)-2-632-8032

Mobile : +66-(0)-86-358-7298

Mail : tottori@aapth.com

当拠点の運営法人（鳥取県より業務委託）

■アジア・アライアンス・パートナー・ジャパン株式会社 <http://www.aapjp.com/index.html>

タイを中心に、ベトナム・インドネシア・インド・メキシコにて主に日系中堅・中小企業様の海外進出や進出後の会計税務法務を中心とした運営支援業務を行っております。